「W杯北中米大会　森保ジャパンが〝最高の景色〟へといざなう！」

第80回スポーツニッポンフォーラム

スポーツ振興支援と国民の体力づくりを考える異業種交流勉強会「第80回スポーツニッポンフォーラム」が18日、東京都千代田区のKKRホテル東京で開催され約200人が参加した。トークセッション「W杯北中米大会　森保ジャパンが〝最高の景色〟へといざなう！」がテーマ。サッカー元日本代表のラモス瑠偉氏(69)、スポーツジャーナリストの二宮清純氏(66)が登壇し、約1時間にわたり意見を交わした。

スポーツジャーナリスト
二宮清純氏

◇二宮　清純（にのみや・せいじゅん）　1960年（昭35）2月25日生まれ、愛媛県八幡浜市出身の66歳。スポーツジャーナリスト。スポーツコミュニケーションズ代表取締役。広島大学特別招聘教授。本紙で「唯我独論」を連載中。サッカーW杯は90年イタリア大会から5大会連続で現地取材。日本サッカーミュージアムアドバイザリーボード委員。

トークセッションで笑顔を見せる二宮清純氏（左）とラモス瑠偉氏

サッカー元日本代表
ラモス瑠偉氏

◇ラモス　瑠偉（らもす・るい）　1957年（昭32）2月9日生まれ、ブラジル・リオデジャネイロ出身の69歳。77年に来日し、89年に日本国籍取得。V川崎などに在籍し、日本代表の中心選手として活躍。引退後はビーチサッカー日本代表、東京V、岐阜で監督を務めた。2018年に日本サッカー殿堂入り。1㍍81。血液型O。

歴史をつくるチャンス

今回PK戦はAIの勝負じゃない

⚽采配は監督の腕次第

二宮　さあ、ラモスさん、W杯北中米大会です。（メンバー発表した翌日の）スポニチの1面に、森保一監督が泣いている写真が載ってました。選んだ26人以外のことを思ったのでしょうね。

ラモス　森保らしいですね。いい男ですよ。気持ちが分からないわけじゃない。自分はサプライズで選ばれるのではないかと思っていた選手が15人くらいいたのじゃないでしょうか。その選手たちの気持ちが分かったのでしょう。

二宮　ラモスさんは森保さんと日本代表で一緒だったし、またV川崎と広島で戦ったりしましたが、最初は森保さんは無名でした。地元広島のアナウンサーに名前を間違えられたり、代表でも同僚に〝キミのポジションはどこ？〟と言われたりしていた。

ラモス　確かに、僕も最初は知らなかった。アプローチが速い広島の選手というイメージはあったけど、日本代表の経験もなかったからね。それでも本当によく頑張ってくれた。今は彼に恩返しする番だし、最後まで応援する。歴史をつくってほしい。

二宮　彼は〝最高の景色を見る〟と言っていますね。参加国が32から48に増え、決勝までの8試合を戦わないといけない。

ラモス　私の時代と違って選手の層が厚い。26人もいるから大丈夫ですよ。私の頃は18人だもん。

二宮　交代枠はラモスさんの時代の2人に対して今は5人。ということは、監督のカードの切り方が大事になってくる。今日の事前の打ち合わせでも、ラモスさんは〝キーパーソンは森保〟と言っていた。

ラモス　采配は監督の腕次第ですね。常に有事の戦いを想定していると言っても…。今日ご参加の皆さんもガッカリでしょう。僕らは、あれは肉離れで、本番に間に合ってほしいと思っていた。でもラモスさんは、映像で見て、これは無理だと思ったと？

ラモス　肉離れと言っても、色々ある。練習をどれだけしても、試合では尻とか後ろの筋肉に負荷がかかる。イヤな予感がしたし、もう間に合わないんじゃないかと思った。僕の祈りが足りなかった。

選手交代でもカードの切り方重要

森保監督はコーチ時代含めW杯3度目の経験は大きい

ラモス氏

二宮氏

ラモス　そのままならW杯のチケットが手に入るかもと思った。でも、油断はできないし、相手にもプライドがある。このままではいけないと思った。後で振り返っても一番、強かった国がイラクだった。ハーフタイムでの監督の言葉は〝45分、ひとつひとつのプレーに100％を出してよ〟というメッセージだった。

二宮　後半のイラクは強かった。

ラモス　僕はピッチに入る時、相手の顔を見ないようにしていた。でもあの時は見てしまった。後半は相手の目つきが全然違った。2―1になったけれど、残り45秒で追いつかれてしまった。力不足だったし、運命だったのかも。

二宮　ラストワンプレーだった。あの時、ラモスさんは審判に何か聞きましたよね。

ラモス　ポルトガル語で〝試合は、もう終わったよね〟と言った。でも、試合は続き、コーナーキックになった。皆、試合を早く終わらせようと思ったが、いきなりショートコーナーが来た。皆、止まっていた。（同点となり）試合が終わったあと、ピッチに座った瞬間に初めて〝頭が真っ白になる〟という言葉の意味が分かった。どこにいたのか、何分あそこにいたのか、分からなかった。

二宮　整理すると、ショートコーナーで試合が終わったはずが、なぜか続いてしまったと？

ラモス　そう。試合後に、現地の人から〝W杯には日本に行ってほしかった〟と言われた。歴史をつくりたかったが、力不足だった。私も36歳だったし、気温40度の中で全試合に出ている36歳は他国にはいなかった。交代枠でも、選手がピッチで感じているものと、ベンチに座っている人が感じているものが違うことがあった。余裕がなかったし、あの試合は、その後3年間くらい見られなかった。

二宮　日本は引き分けて試合に負けてはいないが、得失点差でW杯にいけなかった。付け加えると、湾岸戦争という政治的な背景もあった。スポーツは戦争と対極にあるものだが、そうではない国もある。イラクにも気の毒な面はあった。

ラモス　これから4年間頑張れば、次はW杯にいけると神さまが言っているようだった。

二宮　試合後の宿舎で、森保選手は窓を開けて、フラフラとベランダに歩いていったらしい。もちろん、本人に早まるつもりはない。放心状態に陥っていたという話を同部屋の柱谷哲二から聞いた。

ラモス　皆、疲れ切っていた。森保はひとりでボランチをして、本当に体を張っていた。ハートも抜群だった。

二宮　彼は優しそうに見えるけど、根はファイターだ。

ラモス　そうですね。

ドーハの悲劇「運命」

二宮　今回の代表発表は5月15日だった。さて5月15日といえば、実は93年のJリーグ開幕の日でもあった。

ラモス　あれから33年、経ちました。

二宮　その間、日本代表を支えた中心がラモスさん。あのイラクとのドーハの悲劇。1―0で折り返し、ハーフタイムでハンス・オフト監督は〝あと45分で米国（本大会）にいけるんだ〟と言った。彼と南野拓実はキーマンだったから残念ですね。でも、次がある。

〝時の運〟今の時代は…

二宮　そんな森保監督が率いる今大会だが、かつてのW杯で私が驚いたことがある。94年米国大会で、スポニチに観戦記を連載した。イタリアは1次リーグでDFフランコ・バレージが右ひざをケガして、さすがに残り試合ダメだろうと。イタリアの記者も「バレージは全治6カ月」と教えてくれた。だからその時に〝バレージ絶望〟と書いたが、なんと25日後のブラジルとの決勝に出てきた。あとでイタリアのチームドクターがNFLニューヨーク・ジェッツの整形外科医に手術を頼んだと知った。W杯はメディカルも含めた総力戦。ピッチの外でも戦いは繰り広げられている。

ラモス　そう、W杯ではドクターやフィジカルコーチがより大事になってくる。僕も試合で1㍍90台の選手に削られたが、ハーフタイムにドクターが鍼を打ってくれて、ピッチに戻れた。

二宮　なるほど。今回はAIの勝負じゃないかと思っている。日本は2度PK戦に阻まれた。昔は〝時の運〟と言っていたが、今はそうじゃない。どういう動きをしたらどこに蹴るか、全部AIにストックされている。文明の利器を、どう使いこなすか。ラモスさんはPKは得意だったでしょう。

ラモス　GKに捕られたり、外したこともあるけれどね（笑い）。

平時でなく有事の戦い

二宮　またW杯は平時ではなく、有事の戦いだと監督は言っている。Aプラン、Bプランといろいろ準備をしている。それどころかAチーム、Bチームでも遜色ない。オフトジャパンではラモスさん不在は、そのまま司令塔不在を意味していた。

ラモス　今は中村敬斗もいる。あの時、層が厚ければ、私たちも米国にいっていた。

二宮　層が厚いので、誰が出ても戦力がガクンと落ちるわけではない。まさに、カードの使い方でしょう。コンディションが良ければ冨安健洋は素晴らしい。だが、どれくらい使えるのか。

ラモス　最高の選手だが、最後の15分か20分か。相手がクロスを狙ってくる時に使える。

二宮　故障明けの遠藤航や冨安を野球のクローザーのように使う手もあるのでは。

ラモス　ありますね。

二宮　そして、どこかでPKになる。それを見越して、後半どうカードを切るか。GK鈴木彩艶の存在は頼もしい。

ラモス　それも頭に入っていに行ける。1次リーグ突破は99％間違いないと思うが、最悪のことを考えると得失点は大事。

ラモス　そうですね。初戦に勝てば、間違いなく勢いづく。

二宮　先にガツンとやれば、相手は弱気になると？

ラモス　時代が違うから比較することではないが、日本に力はある。今は出場国が48だけど、また出場国数が30台のW杯も見たい。以前は、日本にとってのW杯は予選から始まっていたから、ワクワクしていた。今は正直、日本が本大会に出ることが分かっているから、予選は見ないよ。

二宮　48カ国はちょっと多いかもしれないですね。ところで90年代前半の代表を支えたラモスさんは横山謙三ジャパンに強い思い入れがあると？

ラモス　皆、ドーハ、ドーハと言うけれど、その前はW杯予選1次リーグどころか、キリン杯に優勝したことがなかった。

二宮　90年代前半は日本サッカーにとって青春期で、ドーハの悲劇は成長痛のようなものだった。

ラモス　今、日本の選手が海外でたくさんプレーしているのもJリーグのおかげ。

二宮　今回の代表はJリーグ所属選手は3人だけ。そのひとりの長友佑都も欧州帰り。

ラモス　彼が近くにいてアドバイスするのも大きい。連れて行くべき。Jリーグのチームから代表の座をつかむかどうかは選手次第。

2勝1分けでグループを抜けます

遠藤とか冨安を野球のクローザーのように使う手も

ラモス氏

二宮氏

二宮　さあ、日本の初戦はグループ最強のオランダです。

ラモス　大丈夫です。勝ちます。

二宮　2戦目は堅守速攻のチュニジア。

ラモス　オランダ戦の勢いで勝ちます。

二宮　3戦目は大会屈指のストライカーのいるスウェーデン。

ラモス　引き分け（笑い）。2勝1分けでグループを抜けます。

二宮　今大会は3着でも上位8チームに入れば決勝トーナメントにいけるのか、何分あそこにいたのか、分からなかった。

二宮　整理すると、ショートコーナーで試合が終わったはずが、なぜか続いてしまったと？

ラモス　そう。試合後に、現地の人から〝W杯には日本に行ってほしかった〟と言われた。歴史をつくりたかったが、力不足だった。私も36歳だったし、気温40度の中で全試合に出ている36歳は他国にはいなかった。交代枠でも、選手がピッチで感じているものと、ベンチに座っている人が感じているものが違うことがあった。余裕がなかったし、あの試合は、その後3年間くらい見られなかった。

二宮　日本は引き分けて試合に負けてはいないが、得失点差でW杯にいけなかった。付け加えると、湾岸戦争という政治的な背景もあった。スポーツは戦争と対極にあるものだが、そうではない国もある。イラクにも気の毒な面はあった。

ラモス　これから4年間頑張れば、次はW杯にいけると神さまが言っているようだった。

二宮　試合後の宿舎で、森保選手は窓を開けて、フラフラとベランダに歩いていったらしい。もちろん、本人に早まるつもりはない。放心状態に陥っていたという話を同部屋の柱谷哲二から聞いた。

ラモス　皆、疲れ切っていた。森保はひとりでボランチをして、本当に体を張っていた。ハートも抜群だった。

二宮　彼は優しそうに見えるけど、根はファイターだ。

ラモス　そうですね。

一生忘れられない年に

二宮　冒頭でも話したが、93年5月15日、開幕はV川崎と横浜M戦は伝説の試合となった。

ラモス　93年は一生忘れられない年になった。日本に来た時にはプロリーグができるとは思わなかった。2部だった読売クラブの試合はお客さんが300人くらいだった。それより先に韓国でKリーグというプロリーグができた。日本も早くプロ化しないとW杯に出られなくなると思った。その頃、僕はバカなことをして1年間出場停止になったことがあった。自分が認められるためには、クラブを優勝させること、個人タイトルを獲らないといけなかった。それでまた調子に乗ってバイクで事故。一部からは〝ラモスを日本から追い出して〟と言われたけど、また読売クラブは見守ってくれた。香港からも〝3倍の報酬を出すから〟と誘いがあったが、行かなかった。日本国籍を取得してクラブに恩を返そうと思った。

二宮　あの出場停止も、今のスポーツ界だったら仲裁案件かもしれない。そんな冬の時代を耐えたからラモスさんの今がある。さて、森保監督は今回のチームについて最高の景色を見ると言っている。ラモスさんの期待は？

ラモス　歴史をつくってほしい。

二宮　26人をどうやって選んだかと聞かれ、監督はいいことを言っている。〝過去と現在、未来をつなぐチーム〟だと。

ラモス　格好良いことを言っている。現役時代は人の脚ばっかり削っていたけど（笑い）。でも優しいし、マメ。人のためにやる。

二宮　それでは、最後にかつての同僚へのメッセージを。

ラモス　歴史をつくるチャンス。それを逃してほしくない。皆さん、テレビを通じてでも選手に声は届くと思います。ぜひ一緒に応援しましょう！

スポニチ小菅社長80回を迎えられ感謝「ラモス節をお聞きできてうれしい」

懇親会の冒頭、スポニチの小菅洋人社長＝写真＝が主催者あいさつに立ち、「W杯直前に日本サッカー界を引っ張ってこられたラモスさんから、歯にきぬ着せぬラモス節をお聞きできて本当にうれしい」と語った。二宮氏については「我々の新聞にコラムを長年書いていただき、紙面に深みを与えてくれるスポーツジャーナリストの第一人者」と称えた。最後に「この会が80回を迎えられたのは皆さんのおかげ」とフォーラム会員と協賛各社に感謝した。

来賓スポーツ安全協会布村会長乾杯の音頭「スポーツの力は会場の空気をも変える」

来賓のスポーツ安全協会・布村幸彦会長＝写真＝が乾杯の音頭を取った。Jリーグ発足からの歩みやサッカーW杯の話題に触れ「過去、現在、未来がつながるサッカーの感動を共有できるのはぜいたくなこと」と語った。11年なでしこジャパンのW杯優勝を現地観戦した経験から「スポーツの力は会場の空気をも変える」と、その可能性を強調。「男子日本代表が最高の景色を見せてくれることを期待し、共にスポーツを楽しみましょう」と杯を掲げた。

ミス日本の2人がエール「日本、頑張れ！」

2026ミス日本「水の天使」志村美帆さん、同「みどりの大使」永田愛実さんがドレス姿で懇親会に花を添えた。志村さんの特技はバイオリン。「音楽を通して思いを届けることを大切にしていて、その経験を生かしながら活動してまいります」と述べた。永田さんは高校時代に長崎県の高校野球イメージガールを務めており「見て聞いて感じたことを自分の言葉で伝えていきたい」と抱負を語った。2人はW杯に向け「日本、頑張れ！」とエールを送った。

ドレス姿で登場した2026ミス日本「水の天使」志村美帆さん（右）と同「みどりの大使」永田愛実さん

◇協賛企業◇

アサヒビール
インフォマーシャルプロダクト
SBI損害保険
OFBリー
王子製紙
大塚ホールディング
鹿島建設
神田外語グループ
高速オフセット
サントリービバレッジソリューション
三洋紙業
下野新聞
新栄不動産
スリムビューティハウス
第一生命保険
大正製薬
中越パルプ工業
東芝
東京電力
日本通運
日本製鉄
日本製紙
日本印刷
富士フイルムビジネスエキスパート
毎日新聞社
ミキハウス
明治安田生命
森ビル
SNCF・ケー
日本ポーレー
日本物流センター
毎日スポーツパートナー
※順不同